

魚津の教育

魚津市教育センターだより180号

令和8年7月発行

魚津市教育センター

〒937-0053 魚津市林林町1-21

TEL (0765) 23-9161

子供たち一人一人が輝く学校づくりを考える

よつば小学校 校長 長崎 亨

過去の小学校3年生国語の教科書（光村図書 1971～1991 年）に、今西祐行さん作の「太郎こおろぎ」というお話があります。

山奥にある古い建物の小学校に、都会から転校してきたわたし。いばってばかりのがき大将の太郎は、転校生のわたしになんとか親切にしてくれ、「お前をいじめるやつがいたら、おれがそいつを泣かしてやる。」と言ってくれます。太郎は、机の下に床板に秘密の穴を削り、こっそり食べた豆の皮を捨てたり、枝で作った刀を隠したりしていました。ある日、太郎は隣の席の女の子、しのちゃんの新しい消しゴムを勝手に使って、穴に落としてしまいました。太郎は、「取ってきてやる。」と床下に忍び込みます。しかし授業が始まってしまい、しのちゃんは床下の太郎が気になって仕方がありません。下ばかり見ていたしのちゃんは先生から注意され、とっさに床の穴から飛び出したこおろぎを見て、「こおろぎが鳴いている。」と言い訳します。「なんて鳴いている。」と先生にこおろぎの鳴きまねを求められ、しのちゃんは涙ぐみます。その時、床下から「リリ、リリ、一」と太郎の声が…。やがてみんなクスクスと笑い出します。誰かが「太郎こおろぎだっ。」と言うと、先生も吹き出してしまいます。のどかな学校生活での子供たちのやり取りの様子、とりわけ太郎の真っすぐな優しさに心が温くなるお話です。

今、国の方では次期学習指導要領に向けた審議がなされており、「多様性の包摂」が基本的な考え方の一つとして示されています。ここで言う「多様性」は、学習面や行動面で著しい困難を示す子供や、特異な才能がある子供、学校に足が向かない子供、外国にルーツがある子供等を指しています。また、特に問題がないと判断される子供たちにも多様性は存在しています。この多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題であると国は述べています。

このことは決して新しい考え方ではなく、これまでも大切にされてきました。先に紹介した「太郎こおろぎ」では、転校生のわたし、どこか憎めない太郎、泣き虫なしのちゃん、どの子もありのままの個性が尊重され大切にされています。学校は、日々多くの課題に直面し、そのたびに「あれも、これも」と、ともすれば本当に大切にすべきことを見失ってしまいがちです。そんな時こそ、まずは子供たちと毎日接している私たちが、子供たち一人一人をしっかりと見つめて成長を支えることに力を注ぎたいものです。そのことが土台となって、子供たち一人一人が輝く学校づくりにつながると信じています。

ちなみに物語は、太郎が村長さんになって、村に立派な学校を建てたというエピソードで結ばれています。学校は、人の成長を支える場として、「目の前の子供たちが大人になったら」と、将来的な視点をもって焦らずに子供たちの成長を見守ることも大切だと思っています。

今年度のセンター運営方針

教育センターは年2回「センター運営委員会」を開催し、委員の皆様よりご意見をいただき運営しております。2月開催の第2回運営委員会では、昨年度の事業の反省と次年度の事業計画について協議し、運営に関する助言をいただきました。令和8年度の運営方針等は以下の通りです。

(1) 基本方針

魚津市内の小・中学校における地域性豊かな教育活動の推進と教職員の指導力向上を図るため、学校や関係機関との連携を密にし、時代の変化に対応した教職員研修の充実や教育活動に係る研究調査、教育情報の収集・提供に努める。

(2) 今年度の事業について

- ・教育課程研修として、学力向上研修会、授業力向上に関する講演会（魚津地区協業事業）を実施し、豊かな心の育成を基盤とした授業づくり、教師の指導力向上を目指す。
- ・特別支援教育コーディネーター、SC、SSWを活用し児童生徒や保護者を支える教育相談活動の充実と推進を目指す。
- ・魚津市特別支援教育研究会では、会員を特別支援教育コーディネーターに限定し、各校特別支援教育体制の充実を目指し、実践事例による支援の検討、相談機関との連携あり方等について研修を行う。県リーダー研修会での学びを報告する場を設定し、各校での情報共有、実践に活かす。
- ・若手教員研修会に、各校で推薦された中堅教員数名がアドバイザーとして参加し、それぞれのキャリアに応じた資質向上を目指す研修会とする。

★魚津市教育センターHP



★魚津市教育センター要覧



魚津市教育支援センター「すまいる」について

市教育支援センター「すまいる」は、

- ・学校に行けない児童生徒及びその保護者を対象に、居場所づくりをすることで心の安定を図る。
- ・各種体験活動や学習支援を通して自己を肯定する心を育て、社会（学校・地域）参加の意欲を育てることをねらいに、運営をしています。R7年度の利用状況は以下のとおりです。

【市すまいるの利用状況】

	R7年度
1日の平均利用人数	10.4名
1日の最多利用人数	18名
新規通所人数	22名

【来談・相談電話の利用状況】

	R7年度
来談	393回
相談電話	1,240回

今年度は、新たに親子相談日（第2・4月曜日）を設け、児童生徒及び保護者の支援の充実を図っています。

★魚津市教育支援センター「すまいる」



★毎月の行事予定



魚津っ子学び向上委員会の取組について

「魚津っ子の学び向上委員会」は、魚津市教育振興基本計画に基づき、魚津市の学校教育の充実を図るために、児童生徒の「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進を目指す取組の企画・運営及び研究推進の中心にあたる組織です。今年度の課題・取組の柱は以下の通りです。

【共通課題】

魚津市の児童生徒の学力向上を目指して

～一人一人のよさや可能性を生かし、多様な他者と協働し、よりよい学びを生み出す授業づくり～

学力向上部会

目標：児童生徒が主体的・協働的に学び、確かな学力の定着を図る。

○教頭会の取組

- ・授業改善を目指した学校間(異校種、同校種間)の授業互見
- ・課題解明研修における小中学校教員交流の活性化(相談し合える関係性の構築等)

○教務主任会の取組

- ・主体的、協働的な学びが充実する授業改善の推進
- ・「ふるさとキャリア教育」の推進
- ・幼保小・小中接続の推進

心の教育推進部会

目標：自分のよさや可能性に気づき、他人を思いやる心を育む

○教頭会の取組

- ・「魚津ふるさとキャリア教育」グランドデザイン・スタンダードプランに基づく実践、取組状況の把握
- ・ふるさとカルタの作成・活用
- ・不登校児童生徒に対する組織的支援の推進

○生徒指導協議会の取組

- ・いじめ・不登校の未然防止、早期発見、組織的対応(WEBQU 調査の活用、プロアクティブ生徒指導の推進 等)
- ・子ども会議に向けた各校での取組推進

豊かな心を育むことを基盤として

自他の命を大切にすること・ふるさとを愛すること・よりよく生きようとする心

主体的な学び

協働的な学び

自他を尊重する心の育成

問題(課題)意識

自己調整

問題発見・解決型学習

自己肯定感・有用感の醸成

ICTの効果的な活用

教師の指導力向上

温かい学級づくり

よりよい人間関係づくり

教科横断的な学習

対話的な学び

共に生きる喜び

ひと・もの・こととの出会い

家庭学習の定着

基礎・基本の定着

夢や目標に向かって取り組む意欲的な態度・やる気

認知能力と非認知能力の一体的な育成

幼保小接続の推進

地域との連携

学力の向上を目指す

各校での児童生徒の実態に合わせた特色ある取組を実践

ようこそ魚津市へ

～今年度度魚津市内の学校に赴任された皆さん～

3か月間で感じたこと

よつば小学校 石崎 璃央

今年の3月に大学を卒業し、よつば小学校に赴任してから約3か月が経過しました。初任者指導の先生、学年主任の先生をはじめとする、たくさんの先輩方に日々助けていただきながら過ごしています。

よつば小学校に赴任してから感じたことが二つあります。一つ目は、子供たちのパワフルさです。元気よく朝の挨拶をする姿や休み時間に汗だくになりながら遊ぶ姿、給食をたくさん食べている姿等1日に何回も驚かされます。私も子供たちに負けないように休み時間や体育の時間に一緒に体を動かして、パワフルな教員でありたいと思っています。

二つ目は、子供との日々の会話の大切さです。健康観察や朝学活の時間の子供との会話から、その日の健康状態や気分の変化をつかみ取ることを日々実感しています。今は、1日に1回はクラス全員の子供と話すことを心がけています。これからも日々の会話を大切にしながら、児童と関わっていきたいです。

初めて教壇に立つて思うこと

西部中学校 赤坂 航佑

今年の4月に大学を卒業し西部中学校に赴任してから、早いもので三か月が経ちました。まだまだ分からないことだらけですが、先輩の先生方や生徒たちに支えられながら、楽しく充実した日を過ごしています。

西部中学校の生徒と接する中で、強く感じていることが二つあります。一つ目は生徒が持つ無尽蔵のエネルギーです。授業に集中して取り組み、給食を山盛り食べた後でも、休み時間には元気に校庭を走り回っています。私も生徒に負けないよう、仕事はもちろんのこと、趣味のサイクリングやバスケットボールを通して、体力強化に努めます。

二つ目は、「おはようございます」という挨拶の大切さです。朝の登校時、生徒に「おはようございます」と挨拶をすると、生徒は日によって様々な反応を見せます。その表情には、生徒の体調や心境を感じ取るヒントがあるように感じます。どんなときでも「おはようございます」を続け、生徒の変化に気付き寄り添っていけるよう努めてまいります。

魚津の未来のために

西部中学校 石黒 順大

学習や部活動、学校生活の中で多くの教師に支えられた経験から、自分も生徒の成長を支える立場になりたいと考え、教員を志しました。教科指導だけでなく、生徒一人一人の悩みや努力に寄り添い、生徒たちの可能性を引き出す存在でありたいと思っています。魚津市立西部中学校に赴任して約3か月が経ちましたが、実際に生徒と接する中で、日々の小さな声掛けや関わりが、生徒の安心感や意欲につながることを強く感じています。また、生徒は教師の言葉や姿勢をよく見ており、こちらの関わり方次第で学級の雰囲気や成長の在り方が大きく変わることも実感しました。常に公平さと誠実さを忘れず、生徒が安心して学校生活を送ることのできる環境づくりに努めていきたいと考えています。今後も自己研鑽を重ねながら、学習面だけでなく人間的な成長も支えられる教員を目指して努力していきます。

故郷の教壇に立つ喜びと決意

東部中学校 轡田 雄介

私は大学進学を機に地元を一度離れ、これまで他県にて教員生活を重ねてきました。今年度より生まれ育った富山の教壇に立つ機会をいただき、深い喜びを感じています。

私の教員としての原点は、中学時代に教わった担任の先生です。勉強の楽しさを教えてくださっただけでなく、真摯に仕事に向き合われる姿に、大人の矜持を感じ、自分も同じ道を志したいと思うようになりました。

魚津の子供たちは人懐っこく真面目で、何より元気でたくましいです。日頃から美味しい給食をしっかりと食べているからでしょうか。私も、この二か月で体も心も一回り大きくなった気分です。

これからは他県で培った教職経験を糧に、地域の方や先生方から多くのことを学ばせていただきながら、教育の面から魚津の未来に貢献していきたいです。そして、この地から世界へ羽ばたく生徒を育てていけるよう、日々の授業に全力を尽くします。

教員としての歩みとこれからの抱負

東部中学校 近藤 治樹

私が教員を志した理由は二つあります。一つ目は、教員である父の影響です。父が生徒一人一人と真摯に向き合う姿を見て、教員という仕事に憧れを抱きました。

二つ目は、塾講師としての経験です。生徒が「分かった」と笑顔を見せてくれたときに大きなやりがいを感じました。そして、数学の面白さや達成感を生徒と共有したいという思いから、教員を志しました。

学校に着任して実際に生徒と過ごす中で、授業だけでなく日常の関わりが生徒の成長に大きく影響することを実感しました。生徒は一人一人個性や考え方が異なり、それぞれに合った声かけや支援が必要です。生徒との信頼関係を築きながら関わることの大切さを改めて感じています。

今後は、数学の学習を通して考える力を育むとともに、生徒が安心して学校生活を送れる学級づくりに努めていきたいと考えています。一人一人の思いや可能性を大切に、学習面と生活面の両方から成長を支えられる教員を目指して努力していきます。

新規採用から3か月を振り返って

東部中学校 佐藤 壮介

4月に新規採用教員として東部中学校に赴任してから約3か月が経ちました。

初めての中学校勤務ということもあり、最初は分からないことばかりで緊張や不安でいっぱいでした。しかし、生徒たちは素直で何事にも一生懸命に取り組み、周りの先生方も親身になって私を支えてくださるため、今では充実した毎日を送っています。

また、授業や学校生活の中で生徒たちが努力する姿から、私自身も多くの刺激を受けています。悩みながらも前向きに挑戦する姿を見るたびに、私も生徒に負けぬよう成長し続けたいと感じています。

これからも、生徒一人一人のよさを大切にしながら、日々の授業や何気ない会話を通して信頼関係を築いていきたいと思っています。そして、生徒と共に学び、共に成長できる教員を目指して努力していきます。

共に歩む

東部中学校 金井 圭子

私が教員を志したのは、誰かの成長に寄り添える仕事に魅力を感じたことがきっかけです。大学時代、個別指導塾でのアルバイトを通して、一人一人に応じた関わりの大切さを学びました。

現在、特別支援学級の担任として生徒と接する中で感じているのは、適切な支援や言葉かけによって、生徒は自信をもち、主体的に行動できるようになるということです。例えば、活動の流れを具体的に示し、見通しをもてるように支援したところ、それまでためらいがちだった生徒が安心して授業に参加する姿が見られるようになりました。このように、小さな成功体験の積み重ねが、生徒の意欲や成長につながることにやりがいを感じています。

今後は、生徒一人一人に丁寧に向き合い、その可能性を引き出したいと考えています。また、保護者や教職員との連携を大切に、よりよい支援の在り方を探究します。共に学び続ける姿勢を忘れず、成長し続ける教師でありたいと考えています。

先生方への感謝と、これからの私

東部中学校 有倉 美紗希

私が教師を志した理由の一つに、これまで出会ってきた先生方の存在があります。進路や様々な場面で悩んだ際、先生方は私を信じ、励ましながら前へ進む力を与えてくださいました。その姿に憧れ、私も生徒の成長を支える教師になりたいと考えるようになりました。

東部中学校に配属され、数か月が経ちますが、先生方や生徒と様々な話をしながら、充実した日々を送っています。授業や生徒指導では思うようにいかないことの方が多く、悔しさを感じる毎日ですが、生徒と共に考え、授業をつくり上げていくことに大きなやりがいも感じています。また、生徒の新たな一面や成長した姿に触れるたびに、この仕事の魅力を実感しています。

初任者指導の先生をはじめ、周囲の先生方には授業や生徒指導についてご指導いただき、大変感謝しています。教員としての自覚をもち、今後も生徒と共に学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思っています。

魚津市学力向上研修会

6月12日（金）、熊本大学大学院教育学研究科 前田 康裕 特任教授より「主体的な学習者を育てる授業づくりと教師の学び方改革」と題し、オンラインにて講話をいただきました。

「授業感のアップデート」「これからの授業改善」「教師の学び方改革」の3つの視点からお話をしていただきました。途中、ペアやグループで話をする時間を設けていただくことで、「対話」を大切にしながら研修を進めました。



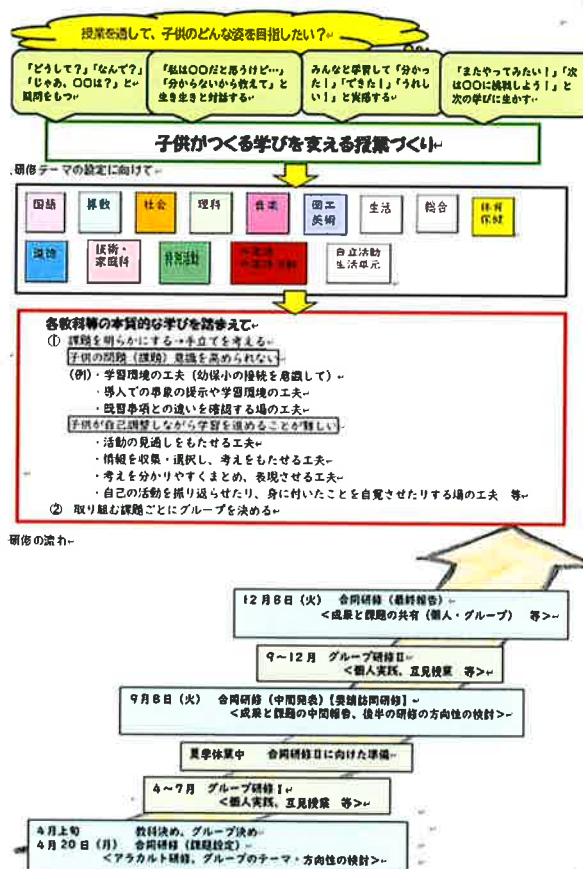
（アンケートより）

- ・これからの時代に求められる能力を育てるためにも、日々の授業の改善に努めたいと改めて思いました。特に、子供が自ら学習課題を設定している場面を見て、小学校低学年のうちからその活動を積極的に取り入れ、自ら課題探究に励む姿勢を身に付けさせたいと感じました。
- ・教師自身が教える専門家だけでなく、学びの専門家として学習者を育てる視点が印象に残りました。知識伝達挙手型の授業から自分自身の授業感をアップデートしていきたいと思います。
- ・今年度は、課題解明研修において、個人研修をグループで進める形がとられています。単に児童生徒に探究的な学びを求めるだけでなく、教員自身も授業改善を自己調整しながら主体的に進めていくことへの意欲付けにつながったのではないかと感じました。実際、今回の研修は、先生方の取組方が前向きで、互いに意見を交わしながら学びを深めようとする姿勢が印象的でした。

課題解明研修

昨年度より、魚津市は課題解明研修に取り組んでいます。今年度は東部中学校・清流小学校・道下小学校・経田小学校の4校で「子供がつくる学びを支える授業づくり」を研修テーマに、各教科に分かれて課題を設定し、取り組み始めています。

6月からグループ研修Ⅰの実践として、互見授業が始まりました。子供たちとの日々の授業を通して、どんな子供の姿を目指したいかを考え、それぞれのグループで解明したいことをテーマにし、授業を参観したり、授業を通して感じたことをチャットで伝え合ったりしています。よりよい授業になるように、意見を出し合い、互いに高め合いながら研修を進めている雰囲気が感じられます。今後も年間を通して、校種の垣根を越えて交流を深めながら、研修に取り組んでいきます。



I 学期に行われた研究会・研修会

特別支援教育研究会

第1回…参加者 20 名、第2回…参加者 28 名（どちらもオンラインと同時開催）



第1回の研究会では、「事例を通して～就学に向けた今後の見通し～」をテーマに、架空の事例から、班ごとに誰がどんな働きかけをしていけばよいか話し合いました。本人が困っていることは何か、チームとしてどのように動いたらよいのか、関係機関にどのように繋げていくとよいのかなど、様々な視点から意見を出し合い、最後に市特別支援教育コーディネーターの印田先生から就学支援に向けて話がありました。また、これまでつながったことのある外部機関について出し合い、どういう場合にどの機関と連携し、どんな支援が得られるか、市スクールソーシャルワーカーの橋本先生から説明しました。大切なことは、困っている子を多くの目で見ることだと学びました。

第2回の研究会では、東部教育事務所 特別支援教育指導員 中村 明子先生をお招きし、「特別支援学級児童生徒の教科における評価について」という演題で、講話をいただきました。今回は、知的級に焦点を絞り、どんな力をつけたいか考えて、目標設定をして評価することの大切さについて教えていただきました。また、評価について日頃から悩んでいることについても一緒に考えてくださいました。よい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価していけるように、一人一人の実態を正確に把握していくことが大切だと感じました。



生徒指導研修会

参加者 18 名

6月10日（水）富山県警察本部刑事部刑事企画課 適正捜査係係長 住和 慎一郎様を講師に迎え、「児童虐待・性犯罪被害等を認知した時の対応について」と題し、講話をいただきました。

初めに、これまでの聞き取りの仕方を振り返りました。聞き取りの基本について教えていただき、「聞き取る者の質問は少なくすること」「全体を通して子供がたくさん話せるようにすること」「思い込みや先入観で質問をしないこと」が大切であることを学びました。その後、子供役、聞き役、メモを取る役に分かれて演習を行いました。実際に試みることで、聞き取りの基本を実践することの難しさや、質問した内容も子供が話したことも全てメモを取ることを大変さを経験することができました。そして、子供の話を正しく最後まで聞くことが大切だと改めて感じました。

（アンケートより）



・子供の解決のために聞き取りを行ってきましたが、自分の聞き取りを振り返ると、子供が本音で話すことを妨げていたのだと感じました。子供の言葉を大切に、本自身に付けた技を使って聞き取ってみたいです。

・児童虐待や性犯罪被害等で他機関と連携する際の学校での聞き取りの方法について、聞き方や記録の取り方がよく分かりました。また、そうすることで、子供のことも、教員自身のことも守ることにつながるということで、ぜひ、校内で広めたいと思いました。

